

3 参加者の皆様から寄せられた質問に対する札幌市の考え

参加者の皆様から寄せられた質問に対する札幌市の考え

フォーラムでは、参加者の皆様から寄せられたご質問やご意見を踏まえ、札幌市とファイターズが「真駒内公園」における新球場検討状況等を説明し、公開意見交換会が実施されたところです。

しかしながら、時間の制約上、全てのご質問やご意見に対応することができなかったことから、代表的な質問(数多く寄せられた質問)について、以下のとおり札幌市の考えを記載させていただきます。

※類似の質問について、集約して記載しております。

※フォーラムの中で説明した内容等については、記載を割愛しております。

ファイターズが移転した場合、札幌ドームの経営はようになるのか？

○ファイターズが移転した場合、札幌ドームの経営に大きな影響があることから、今後は、コンサートや他のイベントを誘致することなどにより、球団の移転による穴埋めに努めていきたいと考えております。

○一方で、球団の移転時期が明確となっていない現段階においては、他のイベント誘致等を正式に行っていくことができず、具体的な見通しを整理することが難しい状況です。

札幌ドームの継続利用は再検討しないのか？

○フォーラムの中でファイターズが説明したとおり、ファイターズとしては、観客席と選手(プレー)の距離が遠いこと、観客席の階段が急であること、巻き取り式の人工芝による運用で選手の体への負担が大きいことの3点をハード面の課題として捉えており、あくまでも新球場の建設を目指す意向であることから、札幌ドームの継続利用については大変難しいと認識しております。

札幌市の誘致姿勢が消極的に見えるが？

○フォーラムの中でも説明させていただきましたが、札幌市としてはファイターズを『地域に根ざした文化』、『地域の財産』と捉えており、引き続き市内を本拠地とされるよう、努力していきたいと考えております。

北広島市のように固定資産税の減免といった手厚い行政支援を提示していくべきではないか？

○現段階では、具体的な整備内容やその活用方法などの判断材料が明らかになっていないことから、今後、議会議論なども踏まえながら判断していきたいと考えております。

「真駒内公園」での新球場建設については、自然環境の破壊や周辺道路の渋滞、周辺住宅地(閑静な居住環境)への影響といった懸念の声が上がっているが、どのように対応していく考えか？

○昨年末(12/15)に札幌市からファイターズに示した考え方の中に公園環境や周辺環境、交通アクセスといった『検討にあたり考慮すべき事項』を挙げており、これをしっかりと整理していくことが重要だと考えております。

○まずは、ファイターズがこれらについての検討を行った上で、その内容について協議を行っていくことを考えております。

**札幌市は、屋外競技場の歴史的価値・観光的価値をどのように評価しているのか？
また、公園を狭くしてでも、新球場と屋外競技場を併存させるという選択肢はあり得ないのか？**

- 屋外競技場は、1972年（昭和47年）に開催された札幌オリンピック冬季競技大会にて、開会式とスピードスケートの競技会場として使用されたという記憶が市民の皆様によく刻み込まれている施設と認識しております。
- 屋外競技場は2026年の冬季オリンピック・パラリンピック招致における開催提案書（平成28年11月）の中で、屋根付きの競技場、いわゆるオーバルとして建替とする案が記載されておりました。
- オーバルについては、帯広市の既存施設を活用する案を最優先に議論することになったので、札幌市としては、施設の更新等を通じ、道民により一層利活用され、満足度を高めていくため、オーバルへの建替に替えて新球場の建設を考えたところです。
- 屋外競技場を残しつつ、さらに新球場を建設する（併存する）ことについては、現状のみどりの減少につながるため、難しいものと考えております。

以上